

# 相撲大会

## ◇以前、学校には土俵があった

以前、小体育館が建っている場所とプールの間あたりに、立派な土俵がありました。毎年、春の愛校作業の折には、子ども会の指導者の皆さんが土俵の整備をしてくれていました。

この土俵は、開校三年目の昭和52年6月12日（日）に行われた愛校作業の時に作られ、その年の7月3日には第一回目の相撲大会が行われました。当時の広報に、その時の様子が書かれていました。



土俵づくり  
中橋 茂子

ばり過ぎな親心は、祈らんばかりです。こんな願いを胸に、麻袋に赤土を入れ、として、「重い、重い。」と言いつつ、ひもで縛る。汗を流しての作業です。親の心子知らずで、無邪気な子

達は、神様から授けられた預りもの、世の為、人の為に働く、立派な人間に育てなければならぬのが、私達、親の義務ではないでしょうか。

この北陽の歴史は、浅いので、これからが、スタートの様なもの。たくさんの子供達を迎え育ててくれるこの学び舎は、私達、親の心と変りはありません。

校舎は生きている、運動場も、土俵も生きている。時は流れても心のふるさととして、いつまでも私達の子供を見守っていてほしいものです。

。北陽は、未来に輝け、子供達。よく学べ、校舎を守る、君達を。先生と、元気に遊べ、子供達

## ◇いつまで相撲大会があったの

毎年、熱戦が繰り広げられた相撲大会は、平成7年（1995年）の第19回目の大会を最後に行われなくなりました。松任市の相撲大会が行われなくなったのを機に校区の子ども会でも相撲大会を行わなくなったのだと思います。同時に土俵も使うことがなくなりました。



## ◇その後の土俵はどうなったの

相撲大会が行われなくなったあとも、土俵にはブルーシートが掛けられ、長い間次の出番を待っていました。休み時間などには、時折ブルーシートが掛けられた土俵の上で相撲をしている子どももいましたが、とうとう相撲大会は行われることはありませんでした。

そして、この立派な土俵は、小体育館の建設とともに、姿を消すことになりました。

今では、当時相撲大会に出場した人とその運営に携わった皆さんの心の中にだけ、立派な土俵の思い出が残っています。